

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第7号 発行日：令和6年6月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【5月21日 宇出津 川谷家】

川谷家では、文化財防災センター、いしかわ史料ネット、町職員ら10人が作業にあたりました。品物がある2階に上がる階段が壁の倒壊で一部塞がれていたため、かろうじて空いた隙間を通っての搬出作業となりました。

地震の影響で物が散乱した状態のなか、部屋の奥からは明治時代の帳簿などを救出しました。屏風も多く、内側に古文書が使われているものもありました。掛け軸の中には、日本陸軍軍人で日露戦争の旅順攻囲戦で知られる乃木希典の書とみられるものもありました。また、屏風では、宇出津ゆかりの作品とみられるものも確認されました。



木箱に納められていた近代の古文書（川谷家）



宇出津ゆかりの作品とみられる（川谷家）

【5月25日 宇出津山分 久田家】

久田家では、いしかわ史料ネット、町職員ら11人が作業にあたりました。

前半は、一般社団法人・能登地震地域復興サポートと協力して、輪島塗の御膳約50人前などを運び出しました。漆器はこの後、復興サポートの手で洗浄され、希望者に引き渡されます。後半は、江戸時代から近代の古文書や、下張り



久田家でのレスキュー作業

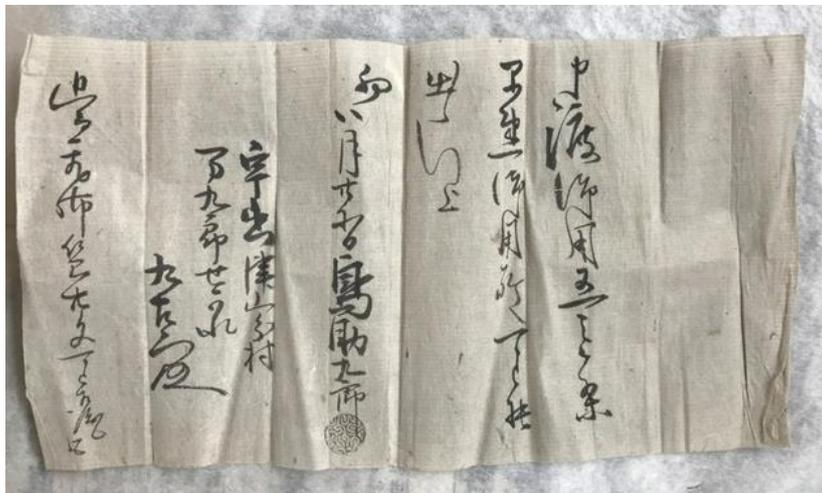
文書のある屏風などを運び出しました。江戸時代の文書では、宇出津山分村の経費に関する帳簿や、土地取引に関する書面が確認されました。近代のものでは、宇出津町時代の予算書など、当時の行政について知ることができる資料が多く見つかりました。

発見された資料解説

久田家は、代々万九郎を屋号とし、山分村で村役人を勤めた家であり、『能都町史第参巻（歴史編）』（1982年）に所蔵資料の一部が紹介されています。

今回の文化財レスキューでは、町史に掲載された資料のほかにも様々な資料が確認されました。

新たに確認された資料では、十村役である島助九郎（越中国砺波郡権正寺村出身の十村役、奥郡（珠洲・鳳至両郡）



御用を勤める）から「申渡御用」があるため、御用所へ出役するように命じられています。「卯八月廿五日」と史料にありますが、『能都町史』に掲載されている久田家文書の中に、島助九郎から「山分村組合頭役」（村役人）に任命された資料に、「乙卯（安政二年）八月」とあるため、今回確認された資料も同時期のものだと考えられます。

この資料以外にも、切高売渡証文などが多数確認され、今後の資料整理によって、宇出津山分地域の歴史を明らかになることが期待されます。

資料解説文・いしかわ歴史資料保全ネットワーク 岩田裕斗

中国銭がなぜここに？

レスキューの依頼を受けて訪れたとある小木の民家から、中国の銅銭が出てきました。調べてみると、時代は日本という江戸時代のもので、中国には清という国がありました。

当時の日本は限られた外国の国々としか貿易をしていませんでしたが、清は相手国の一つでした。貿易の中で中国銭が紛れ込み、当時の日本で流通していた寛永通宝に交じって使われていたそうです。こうした中国銭を輸入銭といいます。



小木は、江戸時代には北前船と呼ばれる輸送船の停泊地として栄えていました。北前船に積み込まれた商品の取引で、輸入銭が紛れ込んだのかもしれない。

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872

